



ふるさとへの愛着と誇りを持ち 新しい価値を創りだす力を育む教育
地域・社会の未来をつくる魅力ある高校づくり



岩本 悠（いわもと ゆう）



- 一般財団法人 地域・教育魅力化プラットフォーム 代表理事
- 島根県 教育魅力化特命官（教育庁）・人づくり特命官(政策企画局)
- 総務省地域力創造アドバイザー
- 東京生まれ。学生時代、一年間アジア-アフリカ20カ国の地域開発の現場を巡り、『流学日記』を出版。その印税等でアフガニスタンに学校を建設。
- 幼稚園・小学校・中学校・高校の教員免許を取得し、卒業後はソニー（株）で人材育成・組織開発・社会貢献事業に従事。
- 2006年海士町へ移住し、隠岐島前高校の魅力化に取り組む。
- 2015年から島根県庁で教育開発による人づくりに従事。
- 2016年に特別ソーシャルイノベーター最優秀賞（日本財団）受賞
- 2017年（一財）地域・教育魅力化プラットフォームを設立。

<近著>

『未来を変えた島の学校』（岩波書店）

『地域協働による高校魅力化ガイド -社会に開かれた学校をつくる』（岩波書店）

地域の次代の教育・人づくりにおける発達・学習段階イメージ

地域社会をつくる
人づくり

地元就職・関係人口・Uターン

高校教育
(高校)

義務教育
(小中)

幼・保

社会教育
(地域)

with

地域と共に
つながり・関わる

for

地域のために
行動・貢献する

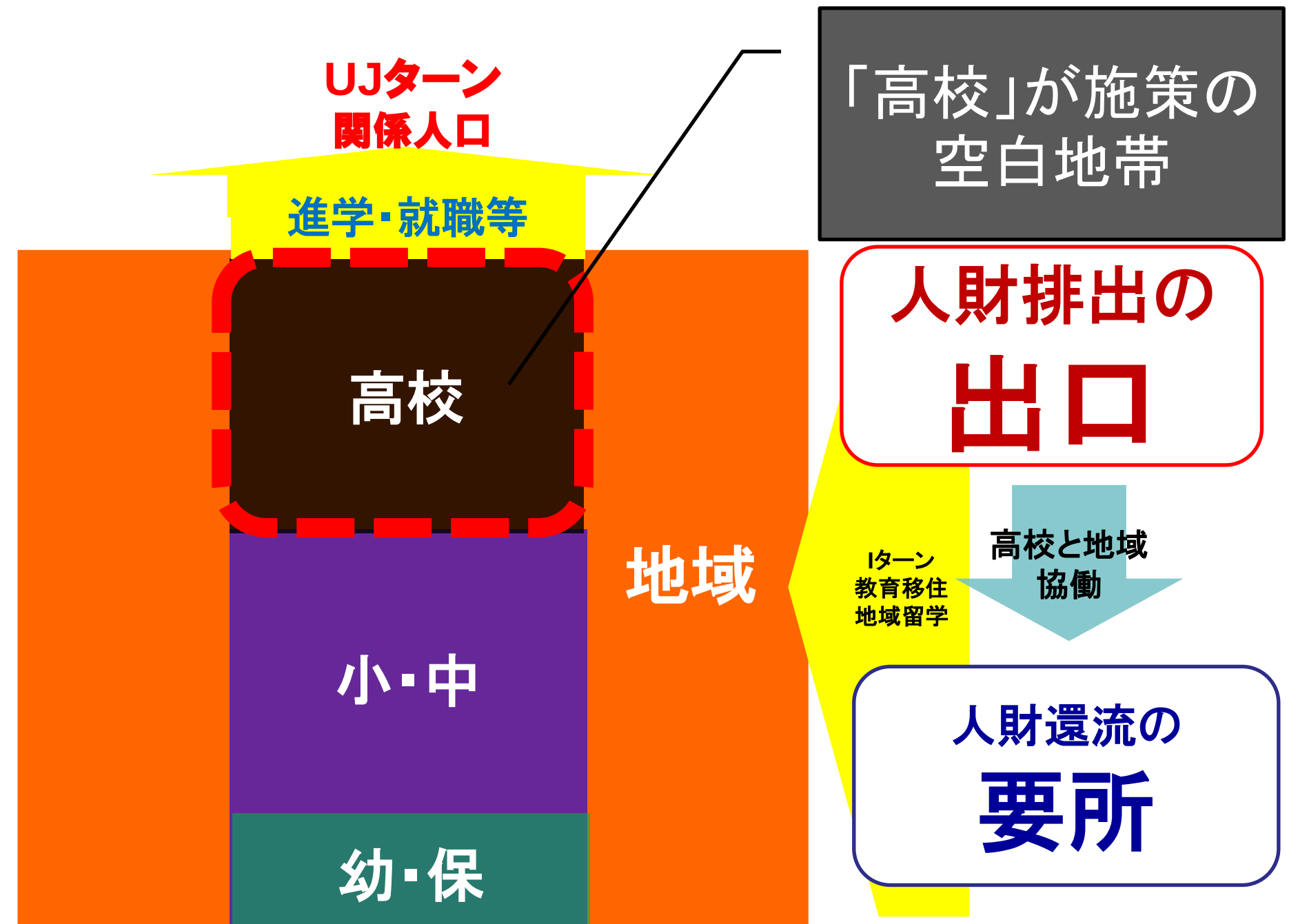
about

地域について
学び・考え・伝える

in

地域の中で
体験する・浸る

魅力ある教育環境×次代の教育・人づくりの盲点



●海士町 × 島根県立隠岐島前高校の事例

未来を変えた 島の学校

山内道雄 岩本 悠 田中輝美

島根県立
隠岐島前発
ふるさと再興への挑戦

岩波書店

人口減少社会と 高校魅力化 プロジェクト

地域人材育成の教育社会学

樋田大二郎 + 樋田有一郎

明石書店

高校魅力化プロジェクト

子どもが「**学びたい**」、保護者が「**通わせたい**」、
教員も「**働きたい**」、地域も「**活かしたい**」と思う『**魅力**』ある学校づくり

学級減の
危機



改革の
好機

まち・人づくりの
盲点



まち・人づくりの
拠点

高校と地域でビジョンの共創

高校、地元町村、卒業生会、PTA、
民間団体、地域住民、中学校等



- ◎「コーディネーター」を配置し高校を地域に開きつなく
- ◎実働する協働体制(コンソーシアム)を構築

ビジョン・目標設定

●地域の課題(悪循環)

既存産業衰退、若者流出、後継者不足、公共依存
(少子高齢化、文化・行事の衰退、財政難)

●地域の向かう指針

産業創出、若者定住、継承者育成、自立協働

●求められている人材

継業・生業・事業・産業を創る人材
《起業家的精神×グローバルマインド》

「仕事がないから帰れない」 ⇒ 「仕事をつくりに帰りたい」
⇒ 「仕事をもって帰りたい」

「ブーメラン」人財育成・輩出

ICTも活用しグローバルに学ぶ



歴史・芸能

ものづくり

自然・環境

医療

教育・子育て

行政・政治

観光

文化・暮らし

商業・経営

福祉

科学・研究

農業・漁業・
林業・畜産業



地域全体が「学校」、地域人材も「先生」
地域課題は絶好の教材」



地域の尊老たちから智恵やヒントを学ぶ

机上の空論・頭でっかちをつくらない現場学習

無農薬農業・鶏の絞め殺しなど・・・



地域に出向いて住民の声を聴く



地域課題の解決策を立案し、実践するプロジェクト



2年生全員『海外研修』対極の世界を体験



失敗経験・世界で学ぶ



Yale-シンガポール国立大学

（地域の魅力、課題、解決策等の発表・ディスカッション）

フィールドワーク・自主研修・ホームステイ

海外への地域の魅力発信（地域地球学）



イメージ

07:02/12:38



エネルギーの自給自足に向けた研究・提案



**地域の方たちの協力を得て
現在は地域系部活動に発展。**



学習環境の課題解決

地方の子ども・若者の課題

関係性の固定化
価値観の同質化
刺激や競争の不足



多文化協働力の不足
広い視野・創造性の欠如
チャレンジ精神の不足



未来を創る島留学

自分らしく生きられ

したことのない体験や

ステキな人にたくさん出逢える

この島で、最幸の高校生活をすごしませんか



学力+人間力保障



全国から意志ある多彩な脱藩生募集
「異質性・多様性」を持ち込み活性化

第1回プラチナ大賞(総務大臣表彰)
第1回キャリア教育連携推進表彰(経産省・文科省)



学習意欲や進路・卒業後にも変化
40人中2人⇒39人中13人が早・慶、国公立大等など

卒業生たちの変化・学び続ける未来のつくり手

「30歳で町に戻って町長になり、
住民幸福度日本一の町を実現する」



「将来、西ノ島にオーベルジュを開き、
食と交流を通じて町を元気にしたい」



「島の大人は凄い人ばかり、
いつか島に戻って
あの人達を超えたい」

「ICTを活用したスマートファームで
知夫から畜産業の未来を変える」



「このまちの理容問題を解
決する新店舗準備中です」



東京出身

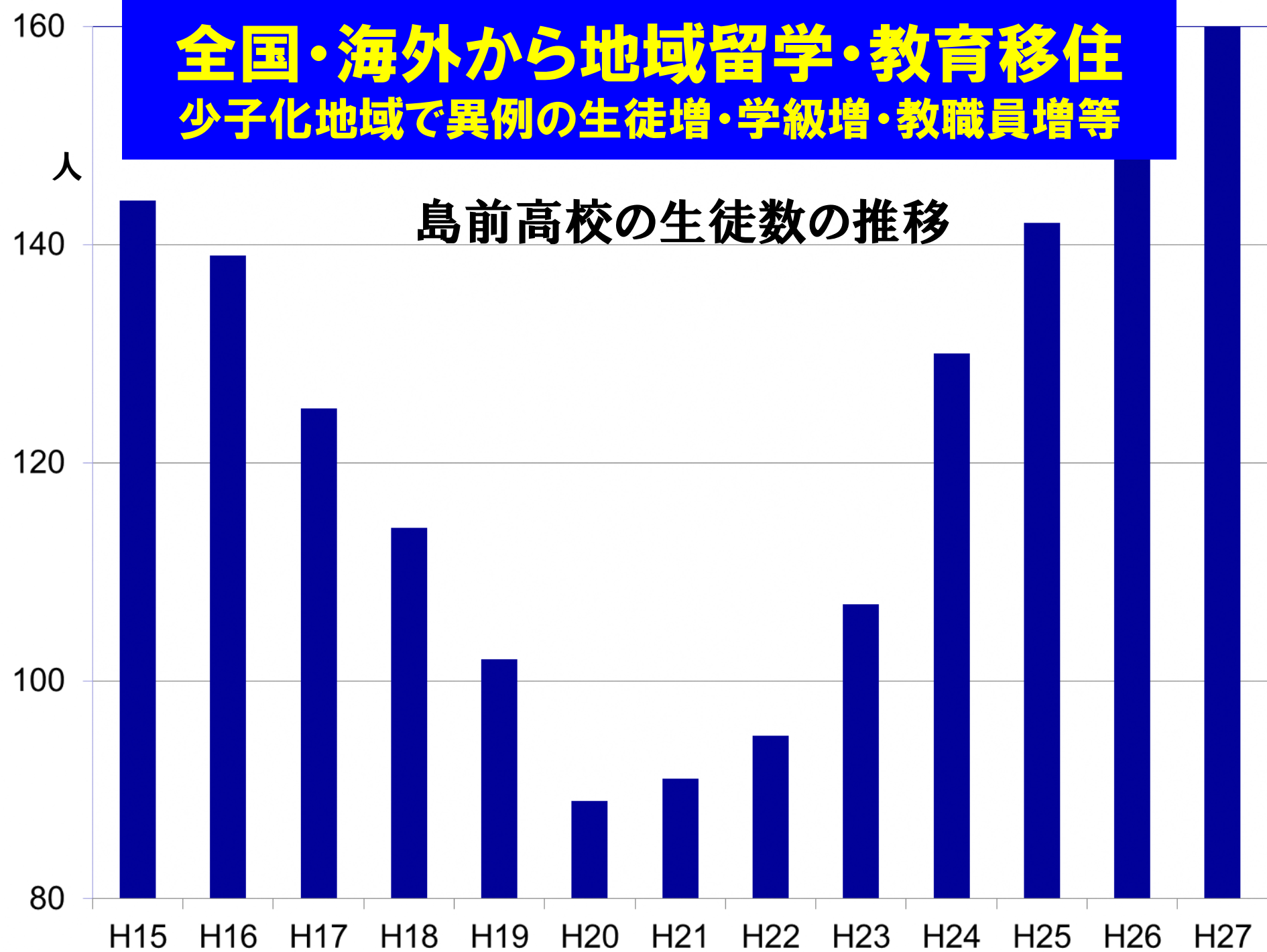
「海士町の保育士になって、
地域の魅力を活かした
‘島の保育園’をつくりたい」



「今度EUを周るんで島のパンフをつくっ
てPRしながら、何に興味をもつかマーケ
ティングしていきます」

全国・海外から地域留学・教育移住 少子化地域で異例の生徒増・学級増・教職員増等

島前高校の生徒数の推移



人の流れの反転

都市部から過疎地へ

子どもたちの地域外流出が止まる

47%

[2007年]



89%

地元高校への進学率

[2015年]

若い家族のUターンで人口の社会増減が反転

-107人

[1996年～2005年]



+53人

[2006年～2015年]

年間平均出生数は2倍以上に増加

8人

[2003年～2005年]



18人

[2013年～2015年]

高校魅力化プロジェクト前後での 地域へのチャレンジUターン率

15.2%

2004～2008

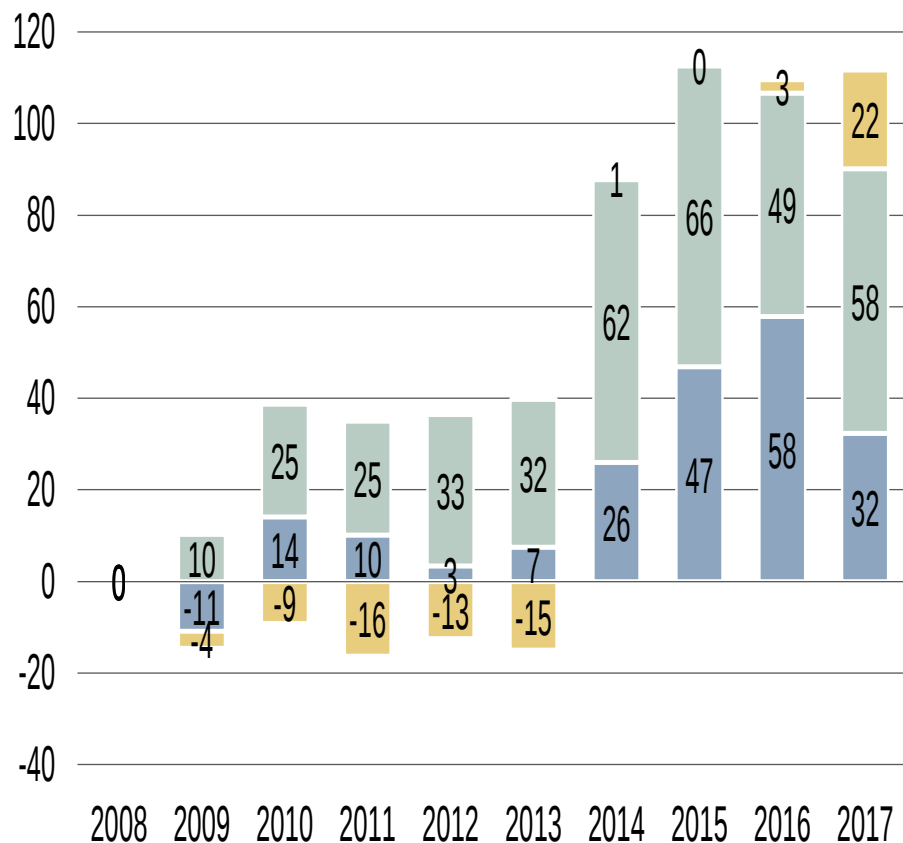


24.9%

2011～2015

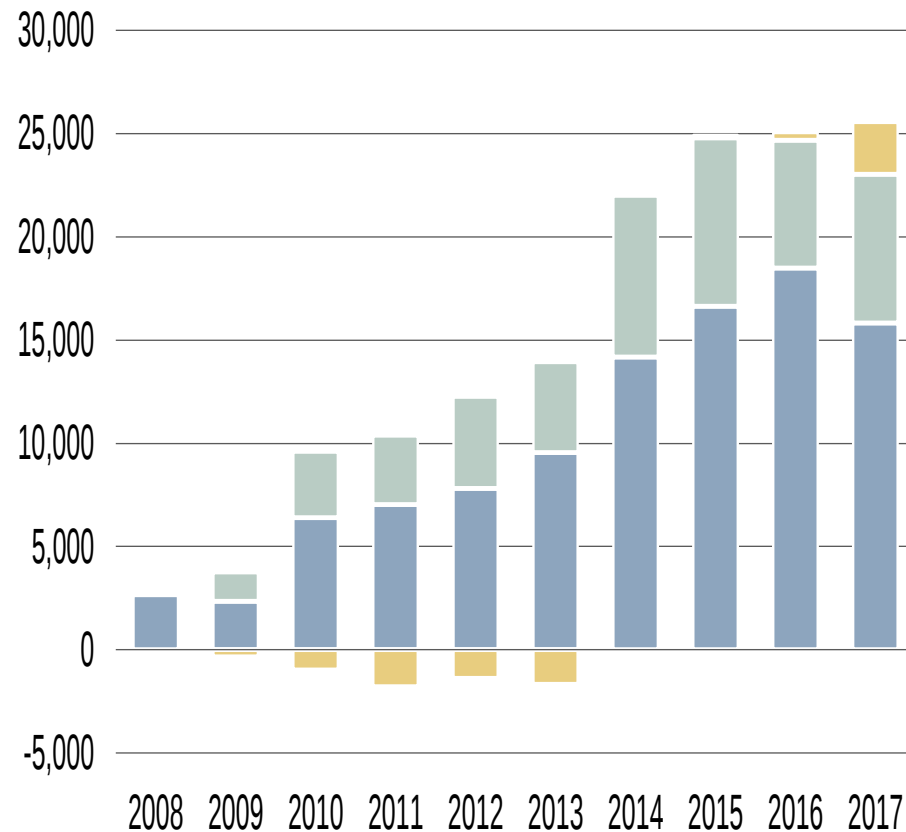
取り組み5年後あたりから地域経済・人口効果が見え始める 地域インパクト評価の結果

残留・Uターン増加効果(人)



■ 海士町 ■ 西ノ島町 ■ 知夫村

消費増加効果(万円)



■ 海士町 ■ 西ノ島町 ■ 知夫村

- 当該世代の15～19歳時点人口を分母として残留・Uターン率を算出。移住増加効果については、2008年時点のUターン率を基準として、そこから増加している部分を魅力化による人口増加と定義した。

【事例】高校魅力化の全県・各地への展開



「あの人だから問題」「あそこだから問題」の突破へ

日本の平均と実践校生徒(4104人)の比較

【社会意識・社会効力感】

関心を持ち、解決したいと考えている社会の課題がある

全国平均 27.2

魅力化校生徒 39.1

私に関わることで変えてほしい社会状況が少し変えられるかもしれない

全国平均 29.9

魅力化校生徒 37.6

日本の平均と実践校生徒(4104人)の比較

【挑戦・主体的行動力】

うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組む

全国平均 51.5

魅力化校生徒 75.8

難しいことでも失敗を恐れな
いで挑戦している

全国平均 40.6

魅力化校生徒 67.8

日本の平均と実践校生徒(4104人)の比較

【地域当事者性・貢献意欲】

地域をよりよくするため、
地域における問題に関わりたい

全国平均 28.7

魅力化校生徒 54.0

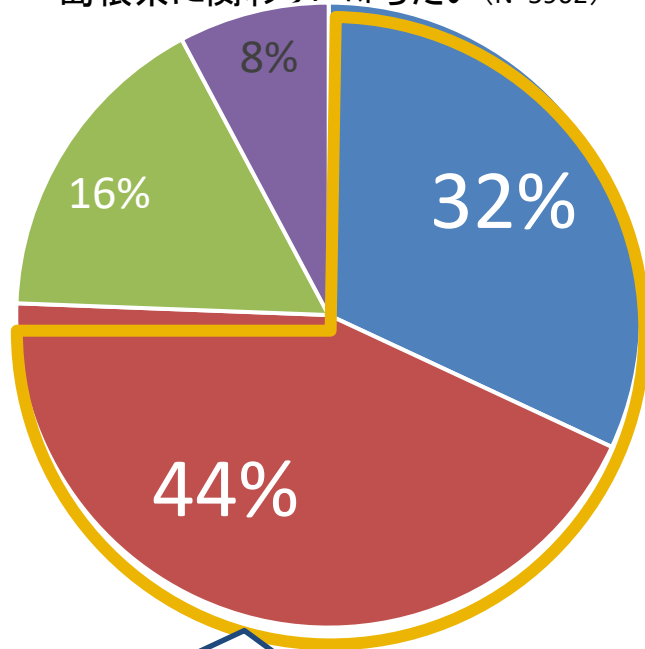
将来、自分の住んでいる地域のために
役に立ちという気持ちがある

全国平均 37.7

魅力化校生徒 66.3

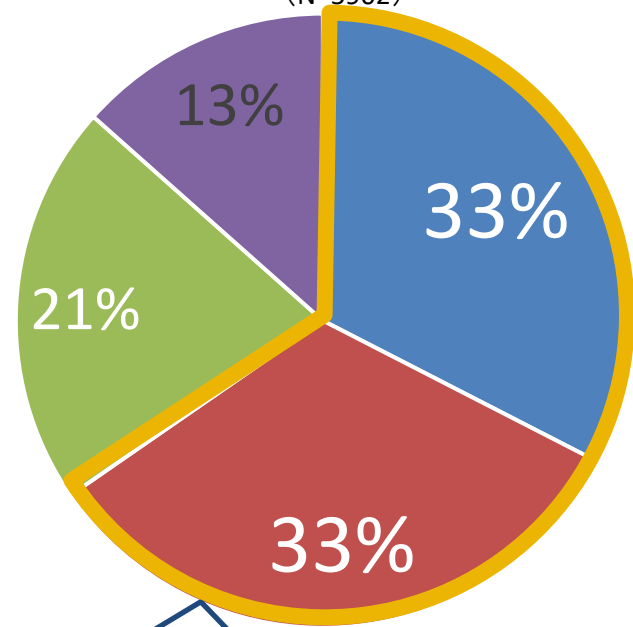
島根の高校生（18歳・卒業時）の意識

卒業後も、自分が今住んでいる地域や
島根県に関わりを持ちたい(N=5902)



約8割の高校生が卒業後も
島根と関わりを持ち続けたい
と思っている

将来、自分が今住んでいる地域や
島根県で仕事をしたいと思っている
(N=5902)



約7割の高校生が将来
島根で仕事をしたい
と思っている

- あてはまる
- どちらかといえば、あてはまる
- どちらかといえば、あてはまらない
- あてはまらない

2017年（一財）地域・教育魅力化プラットフォームの設立

ビジョン

意志ある若者にあふれる持続可能な地域・社会をつくる

ミッション

意志ある若者が育つ魅力ある教育環境を実現し、新たな人の流れを生む かけがえのない一助となる

ボードメンバー



代表理事 岩本 悠

- ・島根県教育魅力化特命官
- ・文部科学省中央教育審議会
初等中等教育分科会臨時委員
- ・内閣官房「まち・ひと・しごと創生総合
戦略」策定に関する有識者委員



常務理事・事務局長 尾田 洋平

- ・（株）リクルートライフスタイル旅行領域
中国エリアマネジャー、業務支援領域立ち
上げ担当



理事・会長 水谷 智之

- ・社会大学院大学「至善館」理事兼特任教授（現任）
- ・（株）オプトホールディング社外取締役（現任）
- ・海士町魅力化プロデューサー（現任）
- ・内閣官房「教育再生実行会議」委員（現任）
- ・経済産業省「我が国産業における人材力強化に向けた
研究会」、「『未来の教室』とEdTech研究会」委員（現任）
- ・（株）リクルートキャリア初代代表取締役



理事 今村 久美

- ・認定NPO法人カタリバ代表理事
- ・公益財団法人ハタチ基金代表理事
- ・文部科学省中央教育審議会委員
- ・東京オリンピック・パラリンピック競技大会
組織委員会文化・教育委員会委員

評議員

- 太田 直樹（元総務大臣補佐官）
鈴木 寛（元文部科学大臣補佐官）
新田 英夫（島根県教育長）
大江 和彦（海士町長）

アドバイザリーボード

- 小泉 進次郎氏（衆議院議員）
須藤 修氏（東京大学教授）
錦織 良成氏（映画監督）
丸山 達也氏（島根県知事）
宮脇 和秀氏（島根経済同友会終身特別幹事）

地域・社会に開かれた魅力ある高校づくりのポイント

越境・架橋・共創

協働体制

学校

(県立高校)



地域

(市町村・大学・産業界等)

コーディネート人材

生徒

(資質能力の育成)



社会

(探究・課題解決等)

越境学習

地者

(地元生・同質・ローカル)



外者

(留学生・異質・グローバル)

高校と社会、生徒と未来をつなぐ 「コーディネーター」



教育改革 × 地方創生
教育課程 × 社会 未来
子ども × オトナ
学び成長 × 課題解決
人づくり × 地域づくり
ローカル × グローバル
...



高校と地域・社会をつなぐ人材（コーディネーター）

コーディネーター業務の概要

「新時代に対応した高等学校改革の推進について」文部科学省2021

コーディネーターを配置することによって、「学校と地域の関係性が深まる」「学校と地域が連携・協働した教育活動の継続性につながる」「各地域の特色を活かした教育活動が見られるようになる」といった成果や効果が見られる。

学校・教育委員会



学校等における コーディネート機能

（例）

- ✓カリキュラム（授業）や生徒会活動、学校行事等における地域連携の調整、企画、教材作成、実施体制構築等
- ✓年間指導計画の策定支援

地域等における コーディネート機能

（例）

- ✓地域人材の発掘や育成、教育資源の収集・分析等
- ✓生徒募集、広報活動、海外留学等の調整
- ✓学校外の学習環境整備
- ✓卒業生と学校や地域をつなぐ機会の設計・運営等

地域・企業・関係団体等



コーディネーター

コーディネーター配置後に
期待される成果例



地域の特色を活かした教育活動が充実し、学校と地域が連携・協働した教育活動の継続性につながる



地域活性化や地域貢献活動などの地域活動に関わる生徒が増え、生徒の学校外での活動に対しても評価がなされるようになる



教員が授業準備や生徒指導などにより力を注ぐことができるなど負担軽減につながる

高校と地域社会をつなぐ人材（コーディネーター）

「新時代に対応した高等学校改革の推進について」文部科学省2021

- ✓ 必要なコーディネート機能は、役割のレベルによって大きく3つに分類され、特にプレーヤークラス及びマネージャークラスのコーディネーターには、カリキュラム開発に係る専門性の高い知識と、地域人材の発掘、育成、教育資源の収集・整理等のために地域内外との継続的な連携が求められる。
- ✓ コーディネーターが非常勤やボランティア等といった配置では、必要なコーディネート機能を継続的に担うことができず、教職員が多くの役割を担う必要がある。



サポーター

学校等における

コーディネート業務例
✓探究活動をはじめとした授業支援
✓学校行事における地域連携企画等の企画や実施、支援等

地域等における

コーディネート業務例
✓地域との交流にかかる情報提供
✓地域プロジェクトへのボランティア参加等



プレーヤー

学校等における

コーディネート業務例
✓探究学習等の企画、指導案づくり、教材作成
✓ファシリテーション等の運営補助
✓フィールドワーク等の企画、調整等

地域等における

コーディネート業務例
✓生徒のボランティアや公民館事業への参加調整
✓生徒募集、広報活動、海外留学等の支援、調整等



マネージャー

学校等における

コーディネート業務例
✓学校や地域の特色を活かした学校全体のカリキュラムの策定支援及び実施体制構築
✓年間指導計画の策定支援、評価方法の設計等

地域等における

コーディネート業務例
✓社会教育及び民間企業等との調整協議
✓スタッフの採用
✓地域資源や課題の把握、分析
✓地域人材の育成
✓人材バンクの構築等

現場に寄り添いながら、計画の実現を支援する

設定された課題に対して、計画を立案・実行・改善する

課題を設定し解決の枠組みを整え、全体を統括する

【事例】島根県におけるコーディネート人材の配置状況

□ 人数推移



□ コーディネート人材を配置する高校のある市町村



2018年度の調査では、コーディネーターを地域おこし協力隊や会計年度職員などとして市町村が雇用するケースが大半を占めていましたが、2020年度は、市町村が雇用するだけでなく、NPO法人や民間企業への委託等が全体人数の半分以上を占めつつあります。

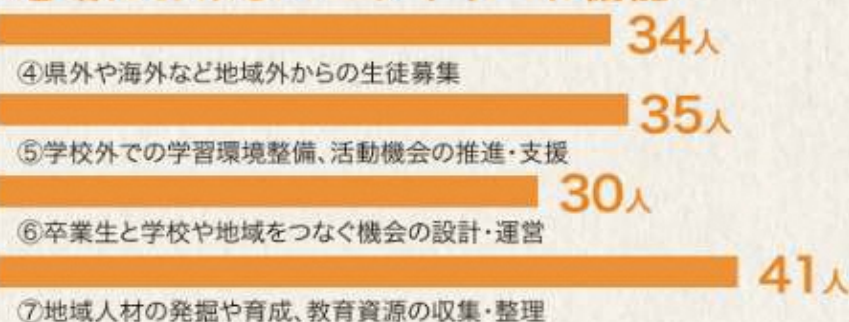
□ 年齢



高校におけるコーディネート機能を担う方は20代が多く、協働体制におけるコーディネート機能を担う方はある程度社会人経験を積んだ方が多い傾向にあります。

□ 担当業務(複数回答)

地域におけるコーディネート機能

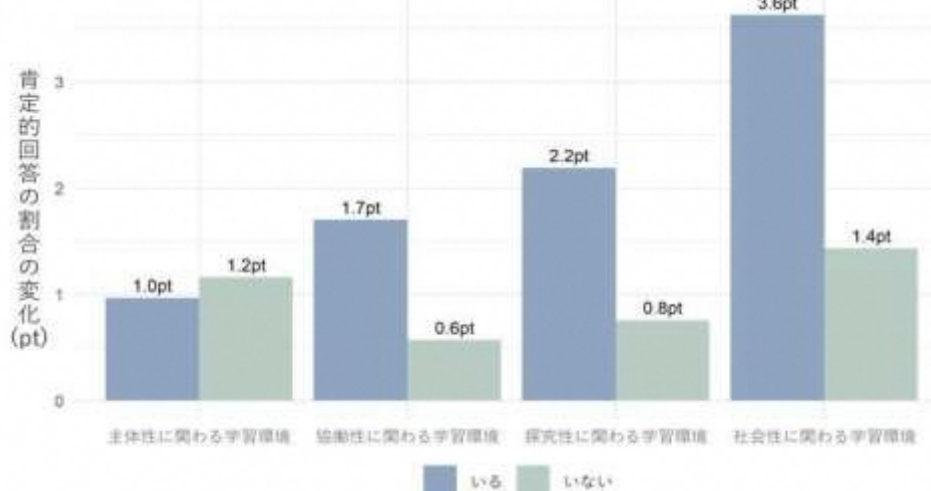


【調査結果】地域・社会に開かれた魅力ある高校づくりによる変化・効果

高校と地域の連携を担う教員以外のスタッフ(コーディネーター)がいる

高校は、いない高校と比較して、学習環境や生徒の伸びが大きい

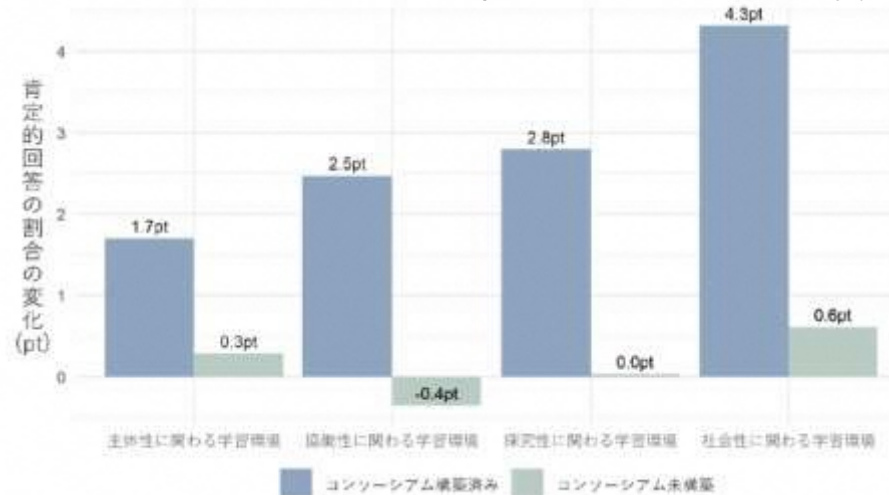
■教員以外のスタッフの有無(2020)と学習環境(2020-2021変化)



高校と地域の協働体制(コンソーシアム)を構築

している高校は、学習環境や生徒の伸びが大きい

■コンソーシアム構築有無(2020)と学習環境(2020-2021変化)



コンソーシアムを構築し、かつ、コーディネート人材を配置することが有効

■コンソーシアム構築×コンソーシアムマネージャー配置と社会性に関わる学習環境



■社会性に関わる学習環境：上位

■社会性に関わる学習環境：下位

コーディネーター人材の採用・配置・活用への一体的支援

コーディネーターの配置上の課題においては、「**コーディネーターを担う人材がない**」が最も多い。

「全国都道府県教育長協議会第2部会の全国調査2018年度」より

(N=47MA) 上位5つを表示



コーディネーター配置・採用支援

**Local
×
Education**

教育の力で、
地域の未来を
つくる



01 REASON

高校の統廃合が
進むことによる地域の衰退



02 REASON

社会で求められる資
質・能力が多様化



03 REASON

高校に閉じた
学校経営

コーディネート人材の育成及び受入体制等の支援

「受け入れ担当者研修」 を通じた配置支援

対象：受入れ担当者（学校・自治体担当者や管理職）
内容：コーディネーターの役割と仕事内容の設計、
採用対象者の設定、訴求メッセージの整理、
自治体と学校の役割分担の仕方などをレクチャー
※上期参画は4月～6月、下期は12～2月に2回開催予定

「サイト掲載、合同説明会」 を通じた採用支援

・サイトへの求人掲載、メディア・WEB掲載
・合同募集説明会（地域外のコーディネーター希望者との出会いの場を創出）
※年間4～5回開催、採用成功するまで参加可能。参画自治体の採用状況を見て、開催時期や回数は変更の可能性あり

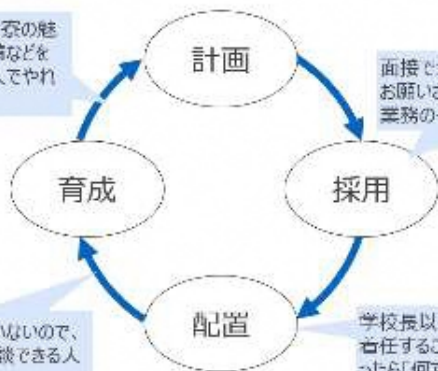
「コーディネーター集合研修」 を通じた立ち上げ支援

対象：着任後1年以内の初任者（受入担当者も参加推奨）
内容：コーディネーターの心構え、仕事の進め方、コミュニティ作り
※11月に導入研修を1回実施。4月着任者が多い場合は5月開催も検討

採用・配置・育成の落とし穴（田中編）

✓コーディネーターという役割を理解してくれる人が周りにおらず、
孤独を感じるケース。

全国募集活動だけでなく、寮の魅力
強化や公営塾の設立準備などを
期待されたが、とても、一人でやれる
業務量ではなかった。



面接で全国生徒募集のサポートを
お願いされたが、具体的な日常の
業務のイメージがなかった。

同じ職種の人が周りにいないので、
校内にも役場内にも相談できる人
がらず孤独を感じた。

学校長以外は、コーディネーターが
着任することを知らず、職員室に入
ったら「何する人ですか」と言われた。

コーディネート機能を担う人材の職務レベル

コーディネート機能の充実に向けて各役割は3つの業務レベルに分類できる



※コーディネーター人材の分類は、マネージャー級がコン
ソーシアムマネージャーや経営協会で全体の数%。大半が
プレイヤーに属する（探究におけるコーディネーター、地域
におけるコーディネーターなど役割別に整理されている）

●戦略・方針の見える化

独断的な高いチームの全体像を
適切に伝え、実際に具体的な務
業計画に落とし込み、取り組み方
針を決定する

●戦略の明確化とPDCAサイクルの見える化

目標と施策を結び付け、長期的
な結果や評価にもとづきPDCA
を実行する

●業務の明確化と賛同・協力の促進・見える化

業務の可視化と問題・改善余地
の把握を通して、自立的に改善
する

＜高効率化の推進体制を構築する＞

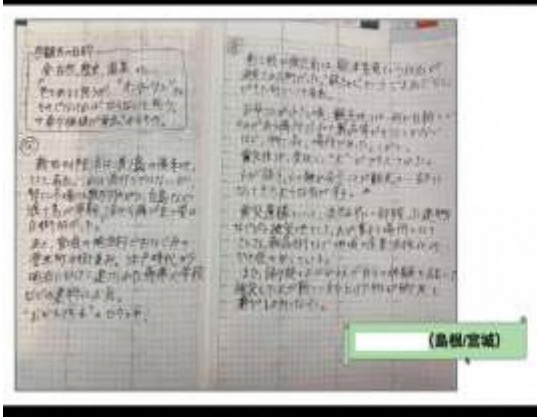
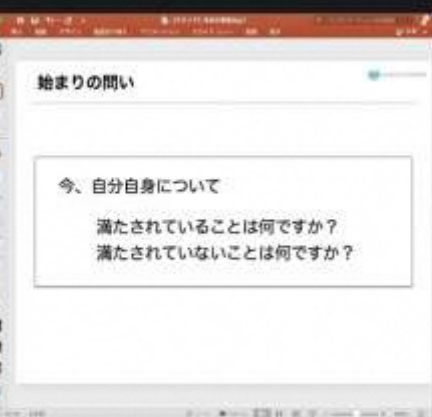
コーディネート機能の充実に向けて、各地域の課題は何か、現状（または組織）が担っているのか、
もしくは担えていないのかを分析することで、次のステップ（組織体制、役割定義、人材配置）を検討



コーディネーター受け入れ担当者研修の様子・スライド

地域社会を舞台にしたPBL（課題発見解決型探究学習）の展開

探究推進教員の育成・学びのプラットフォーム構築等



高校と市町村・地域の協働体制(コンソーシアム)の構築 県、大学、産業界、NPO、卒業生等の連携へ



都道府県立高校と地域社会(市町村等)との協働体制とは？

個人 対 個人

属人的
一時的
単発的

教育活動向き

協議体制

口だけ・言うだけ
手足動かさない
汗かかない
金出さない
会議だけ参加

学校・教育支援

組織 対 組織

組織的
持続的
計画的

教育課程向き

協働体制

共有目標・計画
協働事業・活動
予算・資源共有
意志決定・評価
PDCA・参画

教育振興×地域創生

都道府県立の強みと市町村等の良さを活かすハイブリッドな運営形態 「都道府県立・市町村運営学校」の実現

- 広域での管理や連絡調整ができる都道府県の強みと、より生徒・保護者・学校・地域に近く、現場の声を聴きながら柔軟で機動的に取り組みやすい（地域資源も熟知している）市町村の双方の強みを活かした協働的で個別最適な学校経営を可能とすべき。市町村に運営委託をする事務を特定した上で、地方自治法252条の14に基づく「事務の委託」をすることにより、都道府県立・市町村運営学校は、現行制度の枠内で実現可能と考えられる。
- 当該高校における教職員は、基本的には都道府県任用教職員が中心となることが想定されるが、市町村等による管理職や一部教職員・コーディネーター等の任用や、市町村立小中学校の教職員、社会教育・福祉機関等の職員の兼務・兼業等による活用も考えられる。

都道府県

（設置主体としての強み・期待される役割例）

広域人事による教員の採用・配置

高校間連携・遠隔教育の推進

高校教育の専門知を活かした伴走

長期・安定的な財源・条件整備

都道府県立高校



学校の管理運営事務

教育課程の編成・実施

市町村運営

寮等の運営事務

市町村に事務委託することで
地域資源のフル活用を図る

地域社会の多様な人材の任用・活用

小中高連携・学社協働の推進

分野横断の総合知を活かした教育

機動的で柔軟な学校運営

地域で未来をつくる力を育む越境機会

「地域みらい留学」



越えて、行こう。

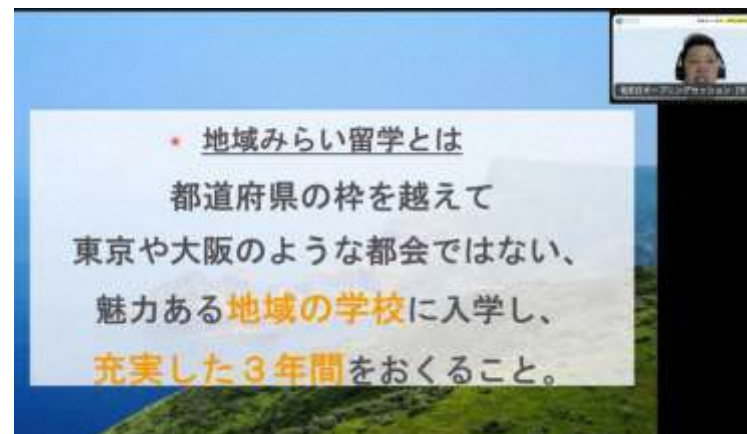
「地域みらい留学」とは？ — 都道府県の枠を越えて、
地域の学校に入学し、充実した高校3年間を送ること。



越えて、行こう。

**大規模なオンライン合同学校説明会（6～8月の土日の計6日程）に加えて、
中学生・保護者が選ぶ軸をもとに中規模なオンライン合説（4月以降）も実施**

■ 令和4年オンライン合同学校説明会の様子



「地域みらい留学」

18.鳥取県

鳥取県立青谷高等学校
鳥取県立倉吉農業高等学校
鳥取県立日野高等学校

19.島根県

島根県立情報科学高等学校
島根県立横田高等学校
島根県立飯南高等学校
島根県立大田高等学校
島根県立島根中央高等学校
島根県立矢上高等学校
島根県立江津高等学校
島根県立浜田水産高等学校
島根県立吉賀高等学校
島根県立津和野高等学校
島根県立隠岐高等学校
島根県立隠岐島前高等学校
島根県立隠岐水産高等学校

20.岡山県

岡山県立和気岡谷高等学校

21.広島県

広島県立加計高等学校
広島県立加計高等学校
基北分校
広島県立大崎海星高等学校

22.山口県

山口県立周防大島高等学校
独立行政法人国立高等専門学校
機構大島商船高等専門学校

23.徳島県

徳島県立城西高等学校神山校
徳島県立海部高等学校

24.香川県

香川県立小豆島中央高等学校

25.愛媛県

愛媛県立弓削高等学校
愛媛県立上浮穴高等学校
愛媛県立長浜高等学校
愛媛県立内子高等学校小田分校
愛媛県立三崎高等学校
愛媛県立野村高等学校
愛媛県立北宇和高等学校

26.高知県

高知県立室戸高等学校
高知県立嶺北高等学校
高知県立梶原高等学校
高知県立四万十高等学校
高知県立大方高等学校

27.佐賀県

佐賀県立有田工業高等学校

28.熊本県

熊本県立矢部高等学校

29.大分県

大分県立久住高原農業高等学校

30.宮崎県

宮崎県立飯野高等学校
宮崎県立高鍋農業高等学校

31.鹿児島県

鹿児島県立南大隅高等学校
鹿児島県立屋久島高等学校
鹿児島県立古仁屋高等学校
鹿児島県立喜界高等学校

32.沖縄県

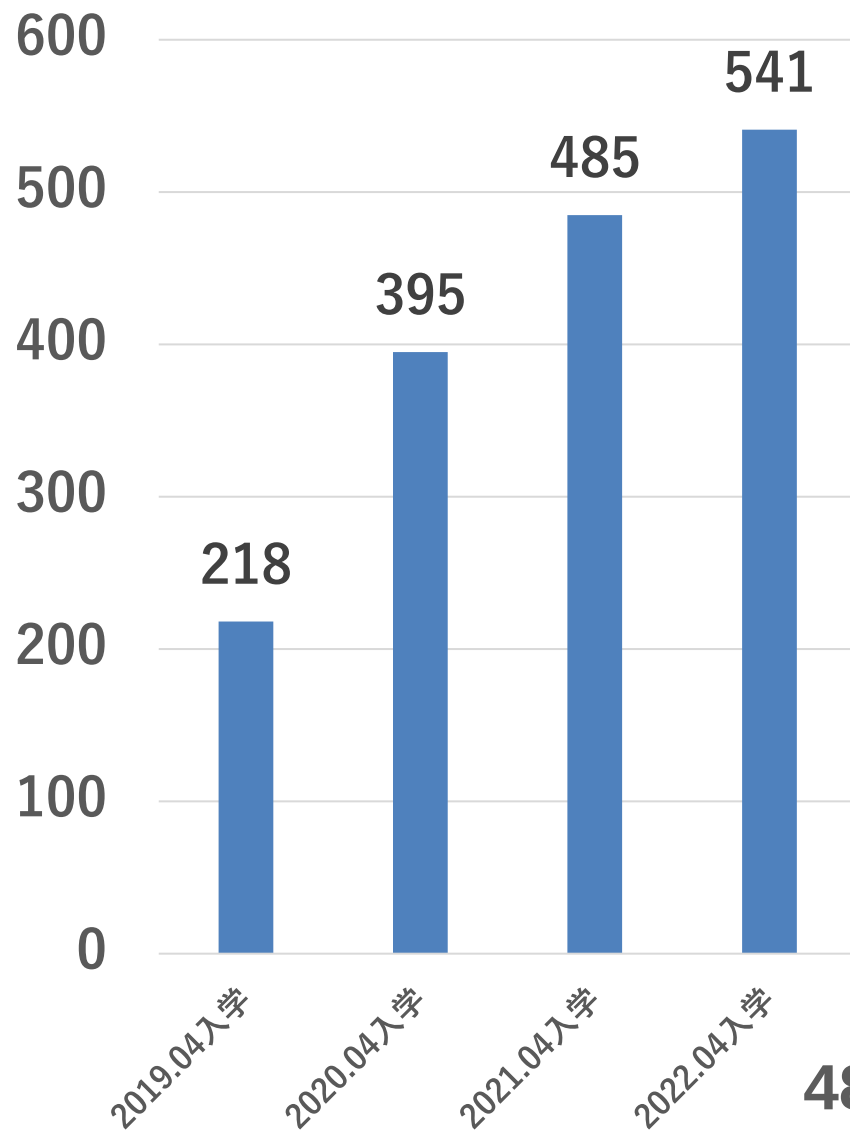
沖縄県立辺土名高等学校
沖縄県立久米島高等学校

魅力あふれる地域の公立高校があなたを待っています
32道県89校が地域みらい留学を受け入れ！



※2022年4月1日時点

地域みらい留學生数（人）



【調査結果】地域みらい留学が教育と地域に及ぼす効果

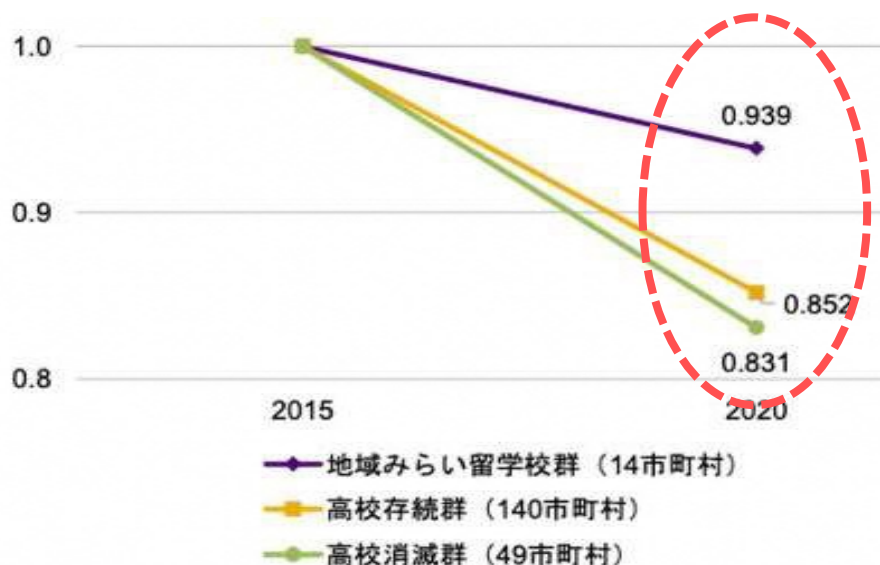
地方留学経験者
178人への調査
「伸びた」
「まあまあ伸びた」
の回答合計

1. 他者と協力する力	78.1%	7. 問題意識を持ち、 聞いたり調べたりする力	69.1%
2. ものごとに進んで取り組む力	73.0%	8. 自らのキャリアを描き、 選択していく力	66.8%
3. 基本的な生活習慣	73.0%	9. 学習に関する意欲	65.1%
4. 自分とは異なる意見や 価値を尊重する力	71.4%	10. 教科に関する学力	60.7%
5. 色々な考え方の人と接して 学びたいという意欲	70.2%	11. 社会における問題に 関わりたいという意欲	56.2%
6. うまくいか分からないことにも 意欲的に取り組む力	69.6%	12. 自分の住んでいる地域に 関わりたいという意欲	54.0%

・地方留学経験者の4割が留学先の地域に将来も関わりたい（≡定住・関係人口）

・高校卒業後に地域留學生の16%が県内に進学・就職 ※令和4年度の島根県の県外生の卒業進路

2018年「地方留学の推進に関する調査研究報告書」日本財団より



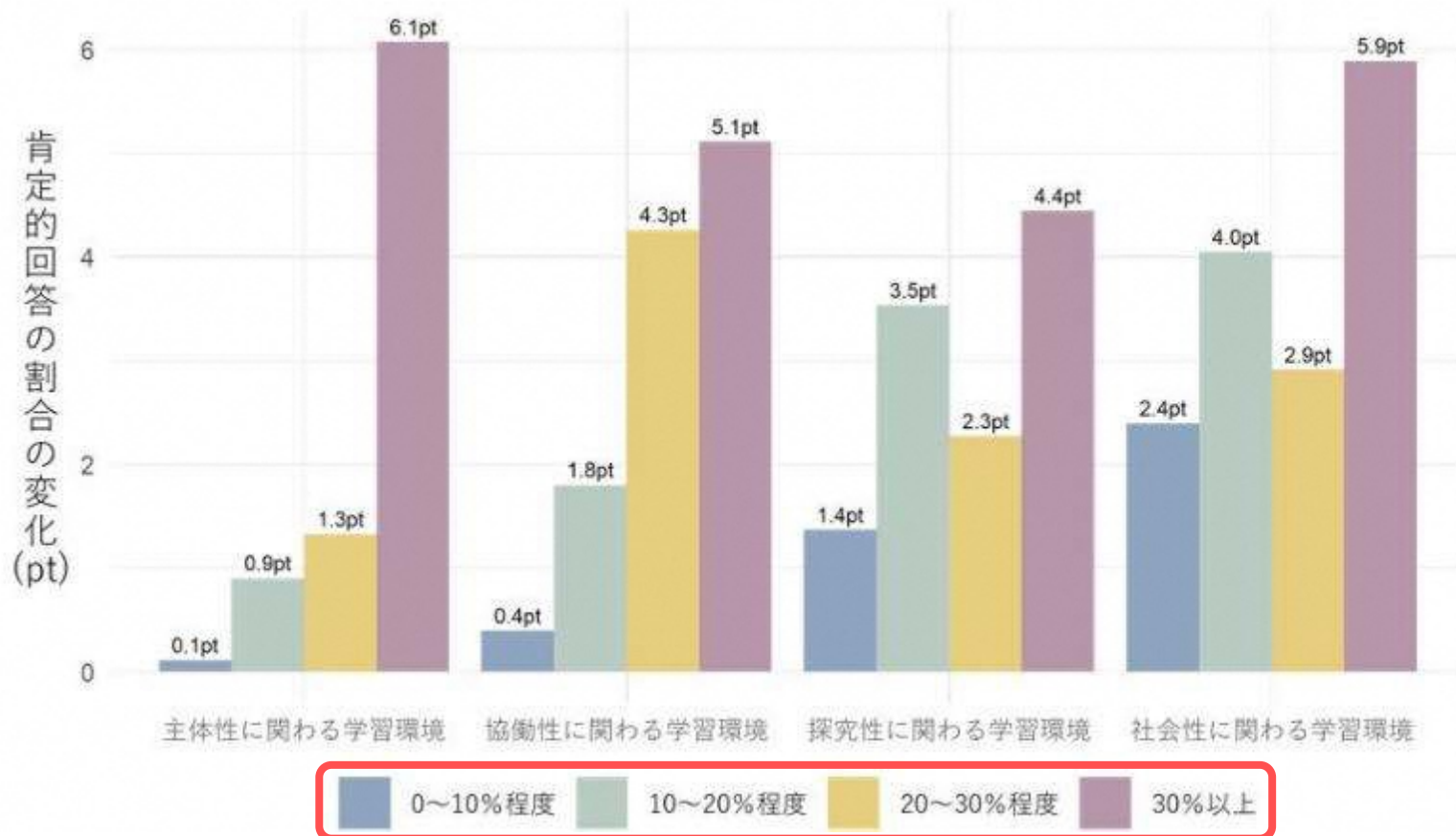
・地域みらい留学が、人口減少の緩和に効果。

・高校生世代に加え、高校生以外の転出抑制や転入増加も促す

【調査結果】地域みらい留学が地域の生徒たちにも影響

全校生徒に占める県外生徒の割合が高い高校ほど、
学習環境や生徒の行動実績の伸びが大きい

■ 県外生割合(2020)と学習環境（2020-2021変化）



高2単年留学「地域みらい留学365」を内閣府と立ち上げ



地域みらい留学

高2留学

365



在籍校



地域留学先校



在籍校

新たに単年留学「地域みらい留学365」を開始(内閣府)

1年間、他の高校に「留学」することで、未来を創る力を伸ばす機会を提供

「都会」→「地方」の一方通行だけでなく、「地方」の高校生にも越境機会を

内容

- ・在籍する高校に籍を残したまま、1年間留学。在籍高校と留学先高校で調整し、読み替えにより単位認定
- ・違う学科（例：普通→専門学科）や違う課程（例：通信→全日）への越境も可能



2021年第1期生23人が誕生。

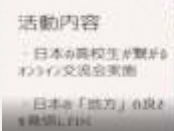
- 在籍学校：
東京32% / 埼玉9% / 大阪9%...
- 私立：68% / 公立 32%
- 中高一貫 50% / 3年制 50%
- 留学理由
問題意識・テーマとあっているから：32%
地域に魅力を感じて：18% 等

第一期生
の属性

受入高校
[12校]



【参考】単年留学1期生の活動事例

テーマ	概要	資料
在籍校生徒との交流	留学生の在籍校（大阪）と留学先（島根）の生徒とのオンライン交流を実施。雲南（島根）の特産を紹介することで在籍校の生徒にPR。（三刀屋高校）	 
地域資源の活用	嶺北地域の杉の廃材を有効活用してギターを作るプロジェクトを実施。「森林・林業ビジョン策定委員会」に参加し、林業従事者と相談して実施中。高校生からの意見を求めている町の人にとってもプラスに。来年以降も継続予定。（嶺北）	
地元生徒への影響	知床の財団で活動に参加。地元の興味がない生徒も巻き込んで活動することで地元生も知床の自然に興味を持つように。地域の大人と交流する機会が増えて、地域の人々の高校への理解も深まる（斜里）	 
地域資源の再活用・活性	使われなくなった古道を有効活用するプロジェクトを実施。島の人にヒアリングし、協力いただきながらプログラムを実行（島前）	
商品開発	地元の会社と相談し、山ぶどうのジャムの商品開発。地域の商品をPRする経験（葛巻） 全国大会「ローカルフィッシュカングランプリ」で、開発した「アゴダゴ汁」が、県代表に選ばれた。（能登）	 
留学生内プロジェクト	留学生1期同士発で、オンラインで「地域の良さを発信しあう」プロジェクトの開始。全国の留学生・在籍校生徒も巻き込んで実施中。（嶺北・津和野・小国・葛巻・斜里）	 

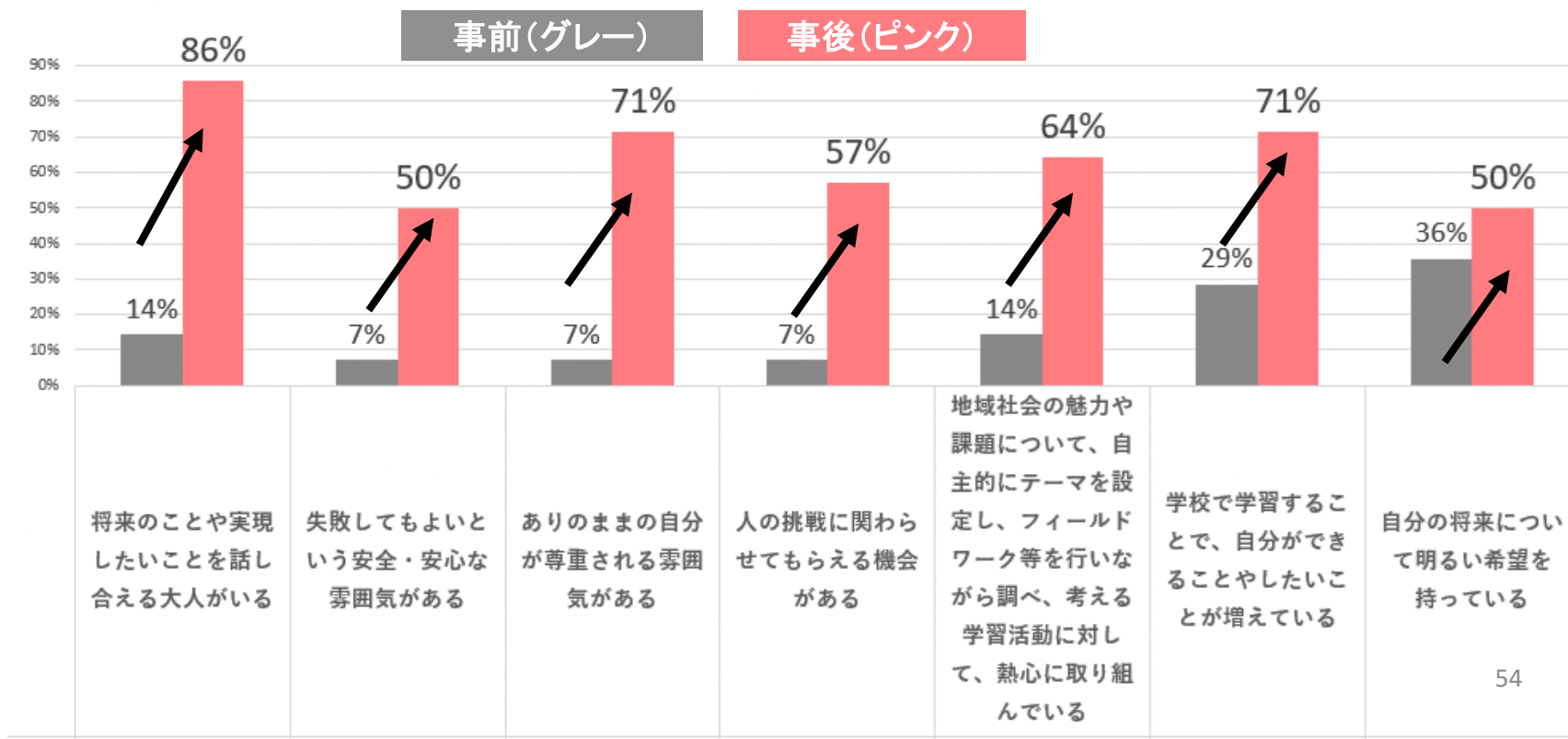
【参考】単年留学1期生の留学前後アンケート結果

【留学後の変化】

- ①地域から受け入れていただき「ありのままでいい」「失敗していい」と感じられる
- ②人の挑戦に関わったり、**実現したいことを語る機会**が多い
- ③やりたいことが明確になり、**主体的に考え・行動**につながる
- ④自分の**将来により明るい希望**を持てる

留学事前－留学事後 アンケート比較

(4段階中最も肯定的な回答「よくする」「あてはまる」の変化)



未来をつくる若者の資質・能力を育むために

若者の資質・能力

主体性

探究性

協働性

社会性

学びの土壌

安心・安全の土壌

対話の土壌

多様性の土壌

開かれた土壌

大人のあり方

主体性

探究性

協働性

社会性

※高校魅力化評価システムの分析により「学びの土壌」が豊かな学校ほど、生徒の資質・能力を高めるという関係性が見られた。
また、経年分析によって「学びの土壌」の豊かさが高まるほど、生徒の資質・能力も高まるという分析結果も得られた。

生徒の資質能力・学びの土壌・大人のウェルビーイング等の見える化に向けた 高校魅力化評価システム

「生徒の成長」及び「学びの土壌（学習環境）」「大人のあり方」を見える化し、エビデンスと対話に基づく教育政策マネジメント及びカリキュラム・マネジメントを促進するための評価ツールとして高校魅力化評価システムを開発。令和3年度には全国40都道府県186校（59318名）が活用。

「高校魅力化評価システム」の特徴

1. 新学習指導要領において求められる資質・能力を多面的に把握

- ✓ 生徒及び教職員等への質問紙調査を用いて、これからの社会に求められる資質・能力やウェルビーイングに関する状況を多面的に捉えることができます。
- ✓ 特に、「社会に開かれた教育課程」や「高等学校教育改革」を踏まえ、地域や社会に対する意識を幅広く捉えているところが特徴です。

2. 生徒の学習環境（＝「学びの土壌」）を把握

- ✓ 資質・能力の育成に重要となる、生徒を取り巻く学習環境（学校や地域での大人との関係性や機会の有無など）に着目します。
- ✓ 生徒の学習環境（＝学びの土壌）の現状を、定量的に把握できる点に大きな特徴があります。
- ✓ また、生徒の学習環境に影響を与える、大人（教職員等）の在り方（姿勢・態度等）の見える化・振り返りも行えます。



「高校魅力化評価システム」による 「現状の見える化」と「事業評価のエビデンス」の提供

弊財団と三菱UFJリサーチ&コンサルティング社が開発した、
「生徒の成長」と「学びの土壌（学習環境）」「大人の在り方」等に見える化し、
エビデンスと対話による政策マネジメントを促進するための評価ツール。
令和3年度には全国40都道府県の186高校（59,318名）が活用。

高校の生徒、教員、そして高校教育に関係する地域の大人等に対して、Webアンケート調査を実施し、地域・高校の魅力・強み、課題・伸びしろが、ひと目でわかる分析結果を提供



【提供されるデータ】

項目別比較

自校・自地域の大事にしたい項目は
伸びているかがわかる。

他地域比較

同じように取り組む他校・他地域と比べて、
自校・自地域の現状がわかる。

学年別比較

毎年の入学生状況など、
学年ごとの凸凹がわかる。

経年比較

入学者数以外で、
取組みの効果の有無がわかる。

① 現状把握

地域・高校の現状の強み・課題に見える化することにより、
募集活動にも活用できるデータを取ることができます。

② 対話ツール

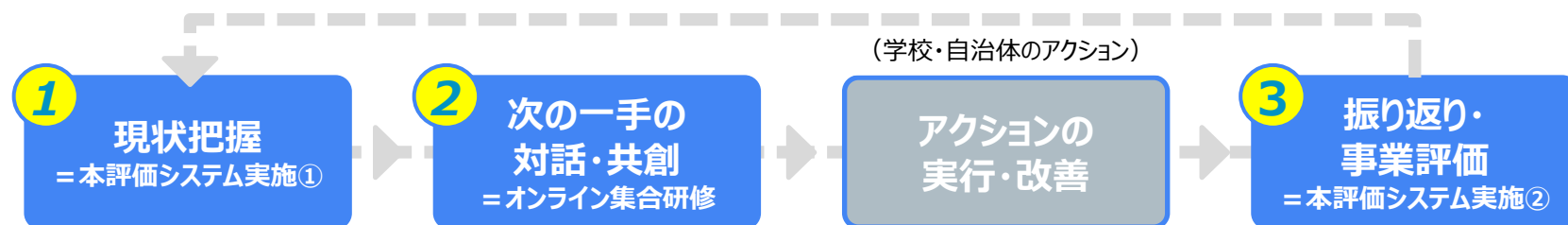
地域と高校の協働の場面で対話ツールとして活用し、
募集活動を効果的に行うための改善につながります。

③ 事業評価

高校魅力化による事業効果（＝生徒・高校・大人の変容）を
測定でき、継続的な予算確保につながります。

活用イメージ：高校魅力化評価システムを用いたPDCA推進

高校魅力化評価システム導入により、
年間を通じた**PDCAサイクルの推進**を支援します。



①現状把握 (7月)

- ・生徒向け、大人向けアンケートを実施
- ・オープンスクール、生徒募集説明会等でもデータ活用

(活用場面)「地域の魅力や資源について考えるなどの項目で高い数値が出ているのが、自校・自地域の特徴として言えそうだ。生徒募集の中でも強調して発信していこう。」

②対話ツール (9月)

- ・本評価システム導入校向けオンライン集合研修を実施
- ・次の一手を打ち出すための、対話・共創の場を提供

(活用場面)「今年の入学生は、学びの意欲に関わる数値が高く出ているようだ。要因について、高校とも対話の機会を設け、新たな強みとなるよう協働を進めていこう。」

③事業評価 (10-12月)

- ・年度内で同項目の2回目アンケート実施が可能
- ・事業効果を測定するエビデンスにより、継続的な予算確保に

(活用場面)「3年間魅力化に取り組んできたが、特に「社会性」に関わる数値は、3年間で大きく伸びている。事業効果として、対外的にも積極的に発信していこう。」

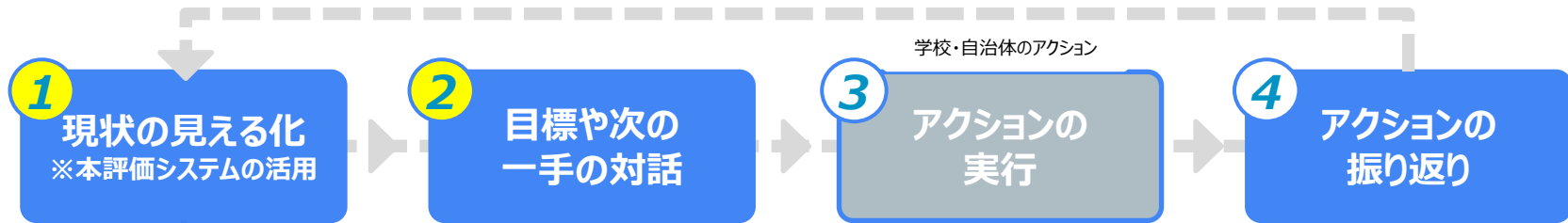
【参考】高校魅力化評価システムの構造

	主体性	協働性	探究性	社会性
生徒のウェルビーイング	<u>私の現在の幸せ</u>	<u>私たちの現在の幸せ</u>	<u>私の未来の幸せ</u>	<u>私たちの未来の幸せ</u>
生徒の行動実績	主体性に関わる 生徒の行動実績	協働性に関わる 生徒の行動実績	探究性に関わる 生徒の行動実績	社会性に関わる 生徒の行動実績
生徒の能力認識	主体性に関わる 生徒の自己認識	協働性に関わる 生徒の自己認識	探究性に関わる 生徒の自己認識	社会性に関わる 生徒の自己認識
学習環境(学びの土壌)	主体性に関わる 学習環境の質	協働性に関わる 学習環境の質	探究性に関わる 学習環境の質	社会性に関わる 学習環境の質
学習活動	主体性に関わる 学習活動の量	協働性に関わる 学習活動の量	探究性に関わる 学習活動の量	社会性に関わる 学習活動の量
大人の行動・認識	主体性に関わる 大人の行動・認識	協働性に関わる 大人の行動・認識	探究性に関わる 大人の行動・認識	社会性に関わる 大人の行動・認識
大人のウェルビーイング	大人の幸福度・生活満足度・成長貢献実感等			

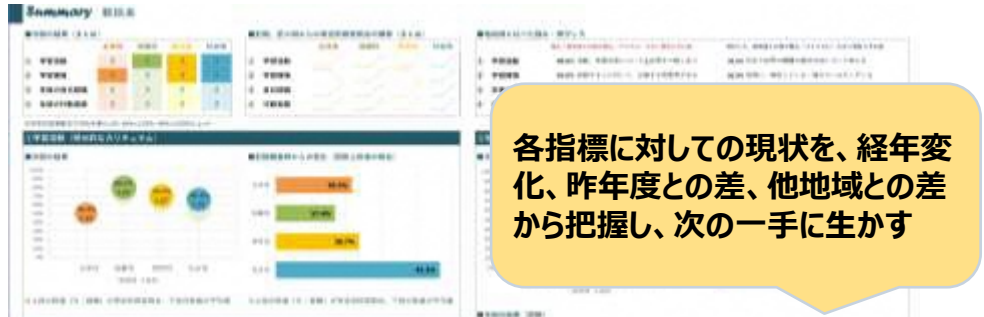
【参考】活用イメージ

育てたい生徒像(資質・能力)の設定と評価・改善

育てたい生徒像（資質・能力）と紐づけて評価・目標設定し、対話的に振り返り、改善にいかす



※調査結果出力イメージ



- 高校の生徒、教職員、行政・地域等の高校関係者に対してWebアンケート調査を行い、「生徒の資質能力（意識・行動）」「学習環境（学びの土壌）」「大人の在り方（意識・行動）」を定量的に見える化
 - ✓ 自校と他の回答校の平均との比較
 - ✓ 生徒の成長の経年変化（※複数年調査実施の場合）
 - ✓ 学習環境に関する生徒と大人の認識の差
- 定量的な評価結果（エビデンス）をもとに、教職員や地域・行政等の関係者で共に学び、対話し、次の一手を共創する研修・ワークショップを開催

	全校		
	全体 割合(%)	昨年度との差 差(ppt)	他地域との差 差(ppt)
社会性に関わる自己認識	50.4%	13.93	-1.04
【地域貢献意識】			
62 将来の国や地域の担い手として、積極的に政策決定に関わりたい	60.9%	13.73	-2.02
53 地域をよりよくするため、地域の問題に関わりたい	39.9%	14.14	-0.06
55 将来、自分の住んでいる地域に役に立ちたい	80.2%	15.43	5.54
【社会参画意識】			
54 私が関わることで、社会状況が変わるかもしれない	89.1%	7.70	6.03
59 地域や社会での問題やできごとに関心がある	89.9%	19.14	3.84
52 18歳選挙権を取得したら、選挙に行くとする	61.6%	19.45	6.76
【グローバル意識】			
56 地域の課題と世界での課題は関連していると思う	70.7%	16.01	5.51
61 将来、見知らぬ土地でチャレンジしてみたい	56.5%	7.24	0.57
60 将来、自分のいま住んでいる地域で働きたいと思う	79.0%	14.70	7.93
【持続可能意識】			
57 地域文化や暮らしを、自らの手で未来に伝えたい	73.2%	13.20	5.92
65 自分の将来について明るい希望を持っている	79.7%	28.90	7.62
	83.3%	19.99	12.68
	15.5%	19.71	20.11
		26.19	21.68
		14.08	-3.73

【参考】高校魅力化評価システムの活用場面

学年会議で

【学年・学級目標などの検討・評価のために】

- ・ 学年ごとの生徒の特性を踏まえた教育実践や、「主体的・対話的で深い学び」による授業改善（PDCA）のサポートに。

職員会議や 学校評価で

【学校の現状把握、目標の設定・共有、評価のために】

「チーム学校」が丸となる目標の共有、成果や状態の評価に。

- ・ 特に伸ばしたい生徒の力の目標共有
- ・ 経年での成果の把握と対話的な振り返り など

地域との 協働の場

【教育に関わる自らのあり方を振り返るきっかけにも】

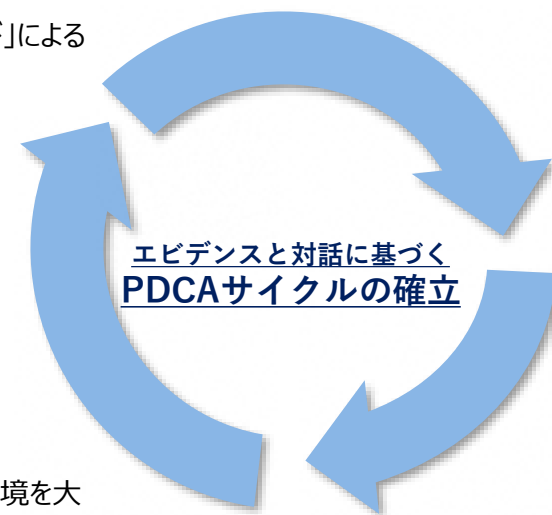
生徒の学習環境はどのような状況にあるのか定量的に把握し、どのような学習環境を大人たちが変えていけば良いか、地域と協働した建設的な議論のサポートに。

- ・ この高校、地域の学習環境の強み、弱みは？ 私たちに何ができるか？ など

事業評価で

【事業のPDCAサイクルの推進や成果の見える化、現場支援・予算獲得にも活用】

- ・ 魅力化などの事業によって、生徒の成長や地域、社会への意識の変化に対し、どのような成果が見られるか？ 進捗確認のサポートに。
- ・ 今後も事業を継続し、予算獲得、有効な政策に繋げていくために取得すべき成果指標は何か？ など



【例】 島根県教育庁では、2019年から全県立高校で高校魅力化評価システムを導入し、2019年2月に策定した「県立高校魅力化ビジョン」に基づく施策評価の一つとして結果を活用。

- また、知事部局との部局横断プロジェクトの企画立案や予算の協議においても、こうした評価結果を共有することで、データに基づいて施策を検討することができている。
- また、県立高校における「グランドデザイン」の策定プロセスにおいて、教職員による生徒の現状把握、「育てたい生徒像」や教育活動の検討に評価が活用されている。「グランドデザイン」策定後は、各高校が「グランドデザイン」に基づく成果指標を設定し、毎年度取組みを検証することでPDCAを回して、教育活動のさらなる推進を目指している。

【参考】学校における活用例：スクール・ポリシーや学校目標の策定

データをもとに教職員や関係者を含め対話的にスクール・ポリシーを策定し、学校経営のPDCAに活用

- 育てたい生徒像として掲げている力の視点で、アンケート結果から生徒の「できていること」「できていないこと」の現状分析を行う。
- 出てきた内容をもとに「身につけさせたい資質・能力」をあらためて具体化し、グラデュエーション・ポリシーとして整理。
- それぞれの資質・能力を身につけさせるためにはどういった手段や機会を設けると良いかを分掌・学年会等に分かれて協議し、カリキュラム・ポリシーにまとめる。
- これらを踏まえて、アドミッション・ポリシーを策定。
- 教職員等で対話的に進めたことで、実際の教育活動でも教職員が意識しやすい形で、スクール・ポリシーを策定。

【例】島根県立江津工業高等学校のグランドデザイン(スクール・ポリシー)の成果指標

1. グランドデザイン（目指す学校像・生徒像）の成果指標

※1）太字は目指す学校像・生徒像。※2）Qは高校魅力化アンケート番号。※3）数値は肯定的に回答した生徒の割合（％）

	R3				R4				R5			
	6月	7月	12月	3月	6月	7月	12月	3月	6月	7月	12月	3月
1 地域産業を担う人材を育成するための実践的教育を行う工業高校	35.6		69.1									
Q14.地域の魅力や資源について考える	33.1		72.7									
Q15.地域の課題の解決方法について考える	32.5		75.3									
Q58.地域社会の魅力や課題について、自主的にテーマを設定し、フィールドワーク等を行いながら調べ、考える学習活動に対して、熱心に取り組んでいる	41.1		59.3									
2 規範意識と社会性を身につけ、積極的に社会に貢献する人材を育成する工業高校	46.6		64.7									
Q53.地域をよりよくするため、地域における問題に関わりたい	56.3		74.7									
Q55.将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある	62.3		76.0									
Q67.地域社会などでボランティア活動に参加した	21.1		43.3									
3 生徒自身が自らの成長を実感できる工業高校	84.8		84.7									
Q64.学校で学習することで、自分ができることやしたいことが増えている	84.8		84.7									
4 地域社会から必要とされ、保護者の期待に応える工業高校	58.3		75.5									
Q19.地域から大切にされている雰囲気を感じる	76.2		84.7									
Q29.地域の人や課題などにじかに触れる機会がある	50.3		75.3									
Q53.地域をよりよくするため、地域における問題に関わりたい	62.3		74.7									
Q55.将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある	56.3		76.0									
Q57.住んでいる地域の文化や暮らしの価値ある部分を、自らの手で未来に伝えていきたい	49.0		74.7									
Q60.将来、自分のいま住んでいる地域で働きたいと思う	55.6		67.3									
5 自立・協働・創造の資質と人権感覚を持った実践力を身につけた人	76.2		86.0									
Q28.立場や役割を超えて協働する機会がある	61.6		74.7									
Q41.自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	90.7		97.3									
6 5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）活動ができる人間力を身につけた人	65.3		76.4									
Q38.目標を設定し、確実に行動することができる	64.9		76.0									
Q51.自分で計画を立てて活動することができる	65.6		76.7									
7 KY（危険予知）能力と技術力・判断力を身につけた人	56.3		69.3									
Q72.授業の内容について、「なぜそうなるのか」と疑問を持って、自分で考えたり調べたりした	69.5		67.3									
Q78.客観的な証拠に基づき考え、判断する科学的視点から課題解決にあたることができる	43.0		71.3									

【参考】学校における活用例：育てたい生徒像にもとづく評価・改善

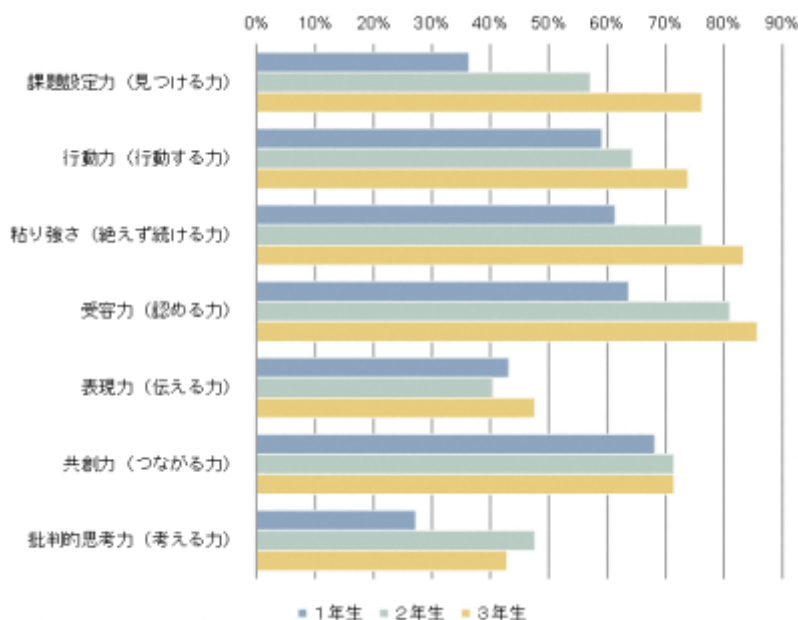
評価項目を育てたい生徒像と紐づけて整理し、対話的に振り返り、次の一手を検討、実施

- 自校の育てたい生徒像をループリックとして整理し、関連する評価項目を一覧化。
- 教職員研修で学年ごとに結果を分析し、改善に向けた施策を検討。
- 重点的に数値を向上させる項目を検討し、現在の教育活動をどのように改善するかと合わせて、職員会議で共有。
- 実際の教育活動についても、お互いに授業見学等を行う。
- 重点項目に関する記述を独自で作成（具体例等も記入）し、変化を分析。

【例】山形県立小国高等学校は、2019年度から2021年度にかけて取り組んできた「白い森未来探究学」の開発・実践に高校魅力化評価システムを活用した。

同校では、育てたい生徒の力「オグパワ7」に対応する評価項目を中心に振り返りの校内研修を実施した。自らの取組みに照らして評価結果を解釈し、現場で起きていたことを想起する中で「問題」を自ら特定し、今後の取組に向けた改善点が抽出された。

■オグパワ7に該当する評価指標の「肯定的回答の割合」の推移



調査結果を受けての対話の実例

- ・ 「批判的思考力（考える力）」では肯定的回答割合が半数に満たなかったことに着目。
- ・ 研修に参加した教員からは「かつて地域文化学として探究に取り組んでいたころには、批判的思考（考える力）を重視していたが、これを強く求めると生徒自身で探究を進めることが難しくなり、教員が誘導しなければならない状態になりやすかった。そこで白い森未来探究学では主体的にマイプロジェクトを持って活動することに重点を置くPBL（Project Based Learning）に切り替えてきたので今回の結果はとても腑に落ちるものである」との声が聞かれた。
- ・ また、「『挑め、ともに！』を合言葉としている本校としてはマイプロジェクトに主体的に取り組むことを重視する良さを継続したい一方で、マイプロジェクトを進める中で学問的な探究に関心をもつ生徒もいた。これまでこうした生徒に十分に対応できていない場面があったので、個々の関心や探究の深まりに応じた伴走を改めて心がけようと思った。」との意見も出された。

日本発のソーシャルイノベーションの海外展開へ

ブータン教育省と「持続可能な幸せをつくる学び(PBL for GNH)」の展開
万博協会とのEXPO共創パートナー 2025年万博も活用し日本発・世界へ





魅力ある学校づくり・人づくりへ

